

**[成果情報名] 気化冷却高設ベンチを利用した「サマーティアラ」の冬定植体系の収量性**

**[要約]** 中山間地域において気化冷却高設ベンチを利用した四季成り性イチゴ「サマーティアラ」の冬定植体系の収量は、株当たり 500～600 g 程度が見込め、春定植体系と同程度である。花房は、冬定植体系においても春定植体系と同様に連続出蕾する。

**[キーワード]** 四季成り性イチゴ、サマーティアラ、春定植、冬定植、気化冷却高設ベンチ

**[担当]** 山形最上産地研究室

**[代表連絡先]** 電話 0233-22-2201

**[区分]** 東北農業・野菜花き（野菜）

**[分類]** 研究成果情報

---

**[背景・ねらい]**

四季成り性イチゴは春定植体系が主体となっているが、「サマーティアラ」は苗の自家生産により生産者の作業体系に合わせた定植時期の設定が可能である。春定植体系は他作物との労力競合が大きいことから、秋に採苗したセル苗を直接定植する冬定植体系の収量性について、「二槽ハンモック式気化冷却高設ベンチ」を利用して明らかにする。

**[成果の内容・特徴]**

1. 冬定植体系の可販果収量は、春定植体系とほぼ同等で株当たり 500～600g である。また、秀品 1 果重は 11g 程度と大玉である（表 1、図 1）。
2. 冬定植体系では、春定植体系と同様に花房は連続出蕾し、夏秋期の長期にわたって収穫が可能である（表 2、図 1）。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 試験地（山形県新庄市）における四季成り性イチゴ「サマーティアラ」の無加温栽培では、春定植体系、冬定植体系とも花房は 4 月中旬から出蕾が始まり、収穫花房の出蕾を 5 月上旬に設定すると、収穫は 6 月上～中旬に開始される（図 2）。
2. 気化冷却高設ベンチの詳細は平成 17 年度東北農業研究成果情報「寒冷地イチゴ夏秋どり栽培に適応する二槽ハンモック方式の気化冷却ベンチ」を参照のこと。
3. 気化冷却高設ベンチの使用にあたっては、特許権実施許諾契約の締結が必要で、問い合わせ先は、山形県農業総合研究センター研究企画部（TEL 023-647-3500）。

[具体的なデータ]

表1 収量

(10株調査)

栽培体系	年次	秀品 <sup>z</sup>			優品 <sup>y</sup>		可販果 <sup>x</sup> 収量/株 (g)	定植日	収穫期間
		個数/株	重量/株 (g)	1果重 (g)	個数/株	重量/株 (g)			
冬定植	2009	49.2	547	11.1	10.0	120	667	前年12月12日	6月4日～11月2日
	2010	36.8	494	13.4	4.0	52	545	前年12月21日	6月7日～10月31日
	2011	50.0	568	11.5	4.1	66	634	前年12月22日	6月3日～11月28日
春定植	2008	44.1	501	11.4	15.8	188	689	4月14日	6月26日～11月19日
	2009	42.0	502	11.9	9.2	187	689	4月10日	6月7日～10月31日
	2010	45.6	524	11.5	4.4	60	583	4月14日	5月27日～10月31日

<sup>z</sup>業務用出荷基準で区分(概観が良好で形状が円錐形で果重7g以上) <sup>y</sup>業務用出荷基準で区分優品(外観や形状が劣り、果重7g以上、軟質果、先づまり果は外品) <sup>x</sup>可販果(秀品、優品)の合計

表2 月別出蕾花房数 (10株調査)

栽培体系	年次	5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
冬定植	2009	1.2	2.5	4.0	5.5	3.5	1.5	18.2
	2010	0.8	2.4	3.0	6.6	3.8	0.5	17.1
	2011	1.3	2.9	2.6	4.0	4.0	2.6	17.4
春定植	2008	-	1.0	3.0	4.0	5.0	2.7	15.7
	2009	-	3.0	3.0	4.2	3.0	2.8	16.0
	2010	0.2	2.5	3.8	5.5	2.9	1.9	16.8

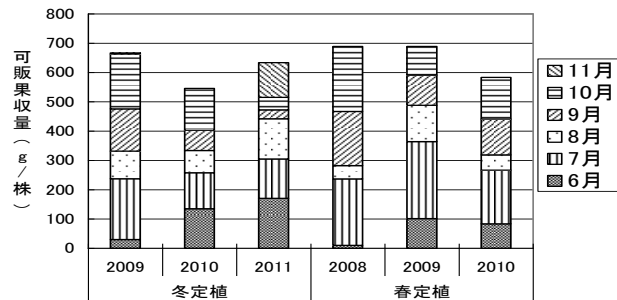


図1 月別可販果収量

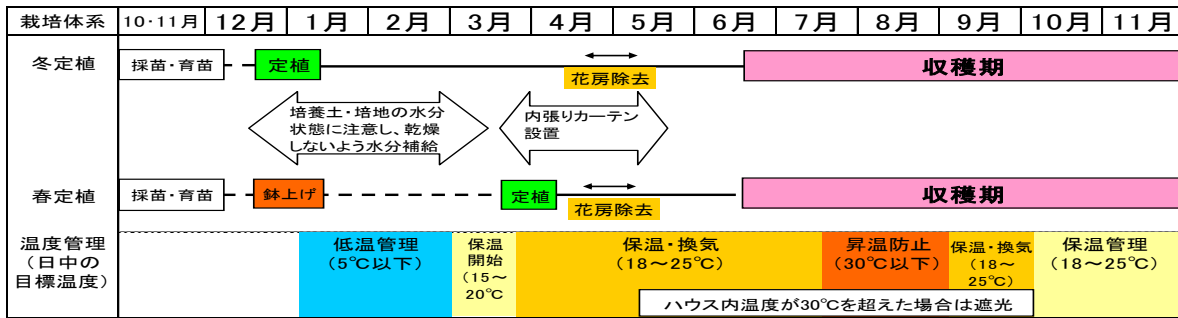


図2 「サマーティアラ」の冬定植体系と春定植体系

【耕種概要】

- ・試験場所: 山形最上産地研究室パイプハウス(山形県新庄市)
- ・採苗および育苗: 前年の10月に挿し苗(25穴連結ポット、培養土: ヤシガラ)し、無加温ハウスで養成。
- ・鉢上げおよび定植:

栽培体系	鉢上げ	定植
冬定植	なし	前年12/中～下
春定植	前年の12/中～下旬に、9cmポリポットに鉢上げ(培養土: ヤシガラと市販園芸培養土を等量配合)	4/上～4/中

- ・栽培方式: 二槽ハンモック式気化冷却ベンチ
- ・栽植密度: 株間25cm、2条千鳥植え、5925株/10a
- ・給液管理: イチゴ専用肥料(13.5-10-20)を使用し、生育に応じ1000～3000倍で管理
- ・芽数・茎葉管理: 芽数は最大4芽管理だが、平成23年度冬植えのみ最大3芽管理。茎葉は古葉中心に摘除

(廣野直芳)

【その他】

研究課題名: オリジナル四季成りイチゴの産地化技術の開発

予算区分: 県単

研究期間: 2008～2011年度

研究担当者: 廣野直芳、長澤さゆり、大木 淳